

ジャパネット杯 春の高校バレー 第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会

男子の松本国際は準々決勝で優勝した洛南に敗れ 女子の都市大塩尻も鎮西に2回戦で逆転負けを喫する

正月5日（土）～7日（月）、12日（土）・13日（日）、東京調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザに於いて標記大会が開催されました。

本県代表の男子：松本国際高校・女子：都市大塩尻高校は、共に新監督を迎えて初の全国という大舞台への挑戦となりました。

「春の高校バレーを終えて」

【松本国際高校男子バレーボール部監督 壬生裕之】

2019年の年が明け、1月5日から開催された第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会に長野県代表として参加をさせていただきました。思い起こせば18年前、今年の高校3年生が産声をあげた年に私自身選手として春の高校バレーの舞台に立ち、貴重な経験をさせていただきました。そして、その年に生まれた子供たちと、今度は監督としてあの舞台に立てたことは、私にとってとても運命めいたものを感じました。

大会の結果は、1月7日の準々決勝で今大会優勝した京都代表の洛南高校に敗れ、全国ベスト8という結果で幕を閉じてしまいましたが、初戦からの4試合を通じて多くの方から、「良い雰囲気バレーをする」「プレーをしている選手が楽しそうだ」などの声を数多くいただきました。実際にコートに立っている選手たちが楽しくないものを、周りで観戦してくださっている方たちが楽しそうだと思うことはあり得ません。私はこの子供たちが、あの全国大会のあの舞台でプレーを楽しむために行ってきた厳しく、大変な努力の道のりを知っているだけに、試合を見た多くの方の声に大変嬉しく感じました。



私自身、監督としての経験も浅く、知識も乏しい中で、選手と共に挑み、喜び、涙したこの大会期間は、大変貴重な経験となりました。自分のできることの模索、自分に足りないものの実感。指導者として、また教育者として大変多くのことを学ぶことができました。

この大会に臨むにあたり、多くの方々に支えられ学び成長できたことを念頭に置き、感謝をし、今回の経験が私たちの糧となり、周りの支援して



くださっている方々に恩返しができるようにまた、精進していきたいと考えています。

このたびは、大会関係者・県協会関係者・学校関係者・保護者の方々・そして選手たち大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

「第 71 回全日本バレーボール高等学校選手権大会に参加して」

【東京都市大学塩尻高等学校女子バレーボール部監督 今井一仁】

3年ぶり6回目の出場となる第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会は、1月5日から東京の武蔵野の森総合スポーツプラザを会場に行われました。1回戦の相手は兵庫県の日ノ本学園高等学校でした。同じようなコンビバレーのチームで、速さを武器に互いに譲らない展開でした。サーブで崩すことと、テンポよく展開しているラリーの中で相手のポジションの穴をつくフェイント攻撃を指示し、何とか苦しい試合を勝つことができました。



2回戦はインターハイベスト8の熊本県の鎮西高校との対戦でした。1セット目から競り合いになりましたが、勝負所でポイントを重ねて1セット目をとりました。2セット目以降、相手のサーブに崩されて思うようにコンビが使えず、相手のエースに決められる場面が多くなりました。戦術的にもう一工夫できたのではと監督として反省しています。2回戦敗退という結果に終わってしまい、非常に悔しい思いが強い訳ですが、3人という少ない人数でチームをまとめてくれた3年生はよくがんばってくれたと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。



今後は、1、2年生が主体の若いチームでしたので、今回の経験を生かして、「日本一」という目標に向かってチーム一丸となって精進して参りたいと思います。

大会に際しまして、一般財団法人長野県バレーボール協会様、長野県高体連バレーボール専門部の皆様をはじめ、多くの方々からご声援賜りましたことに心から御礼を申し上げ、ご報告に代えさせていただきます。



男子は相森中が北信対決を制して16年ぶりの優勝 女子は南箕輪中が再び南信対決を制して連覇を果たす

【県強化委員：安藤利長・木下久資】

中学生の新人県大会に当たるエプソン杯が1月26日（土）・27日（日）、長野市ホワイトリングをメイン会場に開催されました。

男子の決勝戦は、準決勝で中信地区1位の安曇野市立三郷中学校に総合力で勝った北信地区1位の須坂市立相森中学校と、同じく準決勝で北信地区6位の坂城町立坂城中学校を巧さで下した北信地区3位の長野市立若穂中学校との対戦になりました。

第1セット序盤、スパイクやネット際でミスが目立つ相森中を尻目に、若穂中は表エース：吉水の巧みさや裏エース：田上の高さのある攻撃で順調に得点を重ね、終盤迄終始3～4点のリードを奪う展開でした。しかし、セットポイントを握られても諦め



ない相森中は、吉水をブロックで徹底マーク。デュー스에追いつくと、一気に逆転してこのセットを奪いました。

第2セットに入ると相森中は、緩急を付けた効果的なサーブに加え、当たりの出ていなかった双子の弟：勝山裕太がコースをきっちり打ってスパイクポイントを重ねるなど、中盤迄に17-9と大きく先行しました。若穂中も両エースにトスを集めて応戦しましたが、相森中はそのスパイクをしつこく拾って追撃を許さず、最後は双子の兄でキャプテンの勝山翔太がインナーにスパイクを叩き込んで勝利。古豪復活を印象付ける16年ぶりの優勝を果たしました。

尚、北信越大会出場順位決定戦は、第1セット中盤迄は競ったものの、三郷中のエース：曾根原のスパイクサーブで坂城中を崩して一気に突き放し、17点に抑えて三郷中が先取しました。



第2セットも途中迄はシーソーゲームでしたが、コンビで攻める坂城中にそのコンビのミスが出ると流れは三郷中に傾きました。北信6位ながらもセッター：宮原の上手なトス回しで"元気バレー"を展開していた坂城中でしたが、三郷中の両エースの高さにも屈する形で19点止まり。セットカウント2-0で三郷中が勝利しました。



一方女子の決勝は、準決勝で中信地区1位の松本市立丸ノ内中学校を破った南信地区1位の南箕輪村立南箕輪中学校と、北信地区1位の飯山市立城北中学校を破った南信地区2位の阿智村立阿智中学校の対戦となり、南信地区同士、また2年連続同一カードという決勝になりました。

1セット目序盤はお互いに点を取り合う展開が続いていきましたが、中盤以降粘り強いレシーブから小嶋・春日の両エースが強打やフェイントで得点を重ね、少しずつ点差を広げていった南箕輪中が14点でこのセットを先取しました。

第2セットに入って、岡庭優衣・舞衣の双子両エースによる強打や軟打を混ぜながらの攻撃で

阿智中がリードを広げると、中盤まではそのリードを保ったままゲームが進んでいきました。しかし、15点で南箕輪中が追いつくと、そこからサイドアウトの応酬となりましたが、1年生：飯島のサーブから抜け出した南箕輪中が最後は19点でこのセットも連取し、大会二連覇を飾りました。

優勝した南箕輪中の上沼監督は、「昨年からのチームで経験もあり優勝することができた。北信越大会も頑張りたい」と話していました。

尚、丸ノ内中と城北中との間で行われた北信越新人大会出場順位決定戦は大熱戦となり、決着は3セット目までもつれ込みました。丸ノ内中がリードして終盤を迎えましたが、23点で城北中が追いつくと、ここで1年生の小市がスパイクを決め、最後は逆転した城北中がセットカウント2-1で勝利しました。

男女各上位4校は、3月に福井県福井市で行われます菅公学生服カップ第17回北信越中学新人バレーボール優勝大会に出場します。長野県チームの活躍を期待致します。



男女共春の高校バレー出場チームが県新人大会を制する

【長野県高体連バレーボール専門部 岡本雅仁】

長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技大会が1月19日（土）から21日（月）、大町市運動公園総合体育館を中心に1日目に1・2回戦、2日目に準々決勝・準決勝、3日目に決勝・3位決定戦の日程で行われました。

男子は、順当に上位シードのチームが勝ち上がりました。決勝戦は、準決勝で長野工業高校を危なげなく下した前年度優勝の松本国際高校と、同じく準決勝で長野日大高校を破った岡谷工業高校の対戦となりました。

1セット目は、拮抗した展開で高校の持ち味が十分に発揮されました。効果的なサーブと粘りのあるレシーブ、多彩な攻撃で互いに譲らず、19点まで両者一步も譲らない展開で



した。終盤、松本国際の強力なジャンプサーブが走って岡谷工業のレシーブミス进行を誘い、22-20とリードしました。岡谷工業も粘りを見せますが、松本国際はこのリードを守って25-23で勝利しました。

2セット目は、序盤から一気に攻める松本国際高校に対し、緊張の糸が切れた感のある岡谷工業高校は対応できずに連続得点を許す展開となりました。松本国際高校はレシーブからのコンビを展開。25-15で勝利し、7年連続9回目の優勝を達成しました。

女子は、北信高等学校新人体育大会優勝の長野商業高校が私立4強の一角を崩してベスト4入りを果たしましたが、前年度優勝の東海大学付属諏訪高校（以下「東海大諏訪」）に敗れ、決勝戦は3年連続の優勝を目指すその東海大諏訪と、先の高校選手権長野県代表を1・2年生主体で勝ち取った東京都市大学塩尻高校（以下「都市大塩尻」）の対戦となりました。

第1セットは、開始から力強いスパイクが決まって4点を先行した東海大諏訪が、その後も高いブロックとスパイクにより着実に加点し、また要所ではセッターのツーアタックも効果的に決めるなど、安定した試合運びで都市大塩尻に付け入る隙を与えずにこのセットを先取しました。

ところが、第2セットに入ると流れは一変。都市大塩尻本来の速いサイド攻撃、高いセンター攻撃と高速コンビバレーが機能し始めると、粘る東海大諏訪にミスが出始めて都市大塩尻がセットを取り返し、フルセットの戦いに連れ込みました。



第3セットも、開始直後よりリードを広げた都市大塩尻が13-10のチェンジコート後も連続得点するなど勢いは止まらず、24-19とマッチポイント。25点目は東海大諏訪のエースをシャットアウトし、フルセットにもつれた決勝戦は、高校選手権の覇者、都市大塩尻が3年ぶり7回目の優勝を手にしました。

男女各上位8チームは、平成31年4月に行われる中部日本総合選手権大会 高校の部長長野県予選会への出場を推薦され、男女各上位4チームは、平成31年2月8日（金）から10日（日）に新潟県で行われる北信越高等学校新人バレーボール大会に出場します。

競技大会終了後、第 74 回国民体育大会（県）に向けた県選抜選手の第一次強化指定選手選考委員会が開かれ、男子 24 名、女子 24 名の選手が選考されました。

第 74 回国民体育大会少年の部第一次強化指定選手

【男 子】			
1.	柳田 歩輝	松本国際	2 年
2.	武田 大周	松本国際	2 年
3.	板井慎之介	松本国際	2 年
4.	林 秀海	松本国際	2 年
5.	鶴田 楓	松本国際	2 年
6.	宮川 彪馬	松本国際	2 年
7.	藤島 大輔	松本国際	1 年
8.	北原 慎二	岡谷工業	2 年
9.	北原 尚季	岡谷工業	2 年
10.	水野 登偉	岡谷工業	2 年
11.	山岡 龍司	岡谷工業	2 年
12.	三村 康生	岡谷工業	2 年
13.	太田 和輝	岡谷工業	2 年
14.	五味瑠輝斗	岡谷工業	1 年
15.	小林 颯	長野日大	2 年
16.	山野井玲弥	長野日大	2 年
17.	宮澤将太郎	長野日大	2 年
18.	山田 和時	長野日大	1 年
19.	増田 淳平	長野日大	1 年
20.	関島 佑斗	東海大諏訪	2 年
21.	中山 佳樹	東海大諏訪	2 年
22.	松田 燎磨	東海大諏訪	2 年
23.	常田 将志	松商学園	2 年
24.	遠藤 航介	松商学園	2 年

【女 子】			
1.	伊藤 七望	都市大塩尻	2 年
2.	狩野 亜衣	都市大塩尻	2 年
3.	河内 友理	都市大塩尻	2 年
4.	松木 美夕	都市大塩尻	2 年
5.	西原 桃香	都市大塩尻	1 年
6.	上島 彩季	都市大塩尻	1 年
7.	山岸 優月	都市大塩尻	1 年
8.	榎園 紗和	都市大塩尻	1 年
9.	出羽澤 茜	東海大諏訪	2 年
10.	松村菜々恵	東海大諏訪	2 年
11.	倉澤 萌衣	東海大諏訪	2 年
12.	原 杏奈	東海大諏訪	2 年
13.	長谷川 愛	東海大諏訪	2 年
14.	河西 純奈	東海大諏訪	2 年
15.	五味 さら	東海大諏訪	1 年
16.	青柳汐都音	松商学園	2 年
17.	北林 心愛	松商学園	2 年
18.	徳武 凜	松商学園	2 年
19.	新井三寿希	松商学園	1 年
20.	佐藤 玲実	松商学園	1 年
21.	砥石 明	松商学園	1 年
22.	植田 春香	松商学園	1 年
23.	上原 汐音	長野商業	2 年
24.	渡辺 彩	長野商業	2 年

VC長野トライデンツ 3回目のホームゲームも勝利を掴めず

【中体連専門委員 高木俊幸】

1月26日（土）・27日（日）、松本市総合体育館でVC長野トライデンツ（以下「VC長野」）にとっては今シーズン3回目となるホームゲームが行われました。

初日の対戦相手はFC東京で、前回の対戦ではセットカウント1-3と接戦を繰りひろげたチームです。サポーターも、ホームゲームでの勝利を願い臨んだ1戦となりました。



第1セット、セッター：椿は両サイドに上手く配球し、相手のブロックを完成させません。そこにホームの大声援も後押しとなって、アタックポイントを実際に取る展開からゲームは動き出しました。FC東京のミドルブロッカーが椿の配球に対応をしてくると、VC長野もクイックを多用する一方、しぶといブロックカバーからの攻撃を繰り返しましたが、サーブミスもあって流れを維持するには至らず、18-25で第1セットを落としました。

続く第2セットの序盤は、セッターのトス回しも冴え、ミスの少ないゲーム展開を作って接戦になりましたが、中盤でVC長野にイージーミスが

出ると流れはFC東京に。VC長野もブロックポイントも奪い、流れを取り戻そうとしましたが、このセットも21点で落としてしまいました。

流れを作れず、迎えた第3セット。後がなくなったVC長野は、レシーブミスやアタックが不発で苦しむ中、オポジットに森崎が途中出場するとキレの良いスパイクで会場が一気に盛り上がりました。しかし、体育館中がVC長野一色に染まる中、FC東京は冷静に得点を重ね、このセットもVC長野は17点に封じ込められ、セットカウント0-3でFC東京に敗れました。



翌27日（日）、VC長野の笹川監督が前日の試合を振り返るコメントを会場に伝えることから始まりました。「もっと会場の皆さんが楽しめる試合をしたい。選手も熱い気持ちで試合に臨みたい」

そんな監督の言葉通り、第1セットは昨日途中交代で良い流れを作った森崎を先発に起用すると、

その森崎のブロックポイントからゲームが始まり、勢いよくゲームがスタートしました。確実に得点を重ねながら8-8まで一進一退の攻防を繰り広げ、明らかに昨日とは異なる姿勢が見られました。方やジェイテクトSTINGS（以下「ジェイテクト」）は、浅野・興梠の安定したレシーブからの攻撃で加点。終盤、VC長野は21-23の苦しい展開から田中のブロックポイント等で23-23と追いつき、会場のVC長野コールも一段と大きくなりましたが、この



チャンスをものに出来ず、23点で第1セットを落としました。

続く第2セットの序盤も得点の取り合いから始まりました。ジェイテクトの浅野が決めると、VC長野もキャプテン：栗木がスパイやとブロックで得点を奪取。しかし中盤でVC長野にミスが重なると、10-16と点差が開きました。途中交代の長田と市川の息の合った強烈なクイックで流れを引き戻そうとしましたが、確実に得点を取り続けるジェイテクトに押し切られ、第2セットも17-25で落としました。

ホームゲームでの勝利を目指すVC長野にとっては後がなくなった3セット。序盤からブロックポイントで得点を重ね、中盤過ぎまでは終始リードを奪う展開に持ち込みました。会場の大声援をバックに多彩な攻撃を展開し続けましたが、18-18と同点に迫いつかれると、VC長野はタイムアウトを取ってゲームの進め方を確認。直後、森崎がブロックポイントを奪って、ホームでの勝利が近づきましたが、それを阻んだのは安曇野市出身のジェイテクト：浅野。連続得点を挙げられ、最後は21-25で競り負けて、VC長野は又してもホームゲームでの勝利はなりませんでした。



長野県原山教育長より VC 長野トライデンツへ激励を受ける

1月試合結果

- ☆ 第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会
http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H31.1.13haruko_zenkoku.pdf
- ☆ 長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技会
http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H31.1.19koko_sinjin2.pdf
- ☆ エプソン杯第34回長野県中学校選抜優勝大会
http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2018siaikeka/H31.1.26epson_tyugaku.pdf

2月スケジュール

2/2(土)	長野県バレーボール協会 競技委員会	(松本市)
2/3(日)	モルテン杯第13回北信越クラブバレーボール9人制選手権大会 長野県予選会	(上田市)
2/8(金)～10(日)	第19回北信越高等学校新人バレーボール大会	(新潟県)
2/9(土)～10(日) ・23(土)～24(日)	2018-19 V.LEAGUE Division 2 MEN	(須坂市)
2/16(土)	2018-19 V.LEAGUE Division 1 MEN	(松本市)
〃	長野県バレーボール協会 総務委員会	(塩尻市)
2/16(土)～17(日)	第3回ソフトバレー・フリーフェスティバル	(東京都)
2/17(日)	長野県バレーボール協会 強化委員会	(塩尻市)
2/20(水)	長野県体育協会 平成30年度 臨時評議員会	(長野市)
2/23(土)～24(日)	日本バレーボール協会 全国指導普及委員長・加盟団体指導普及委員長会議 研修会	(大阪府)
2/26(火)	日本バレーボール協会 2018年度 第2回加盟団体代表委員総会	(東京都)